

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	28
都道府県名	兵庫県

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校の概要

学校名	篠山市立篠山東中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	10	23
生徒数	85	78	90	4	257	

研究の概要

(1) 研究主題

たしかな力を持ち、磨きあって自己実現に向かう生徒の育成

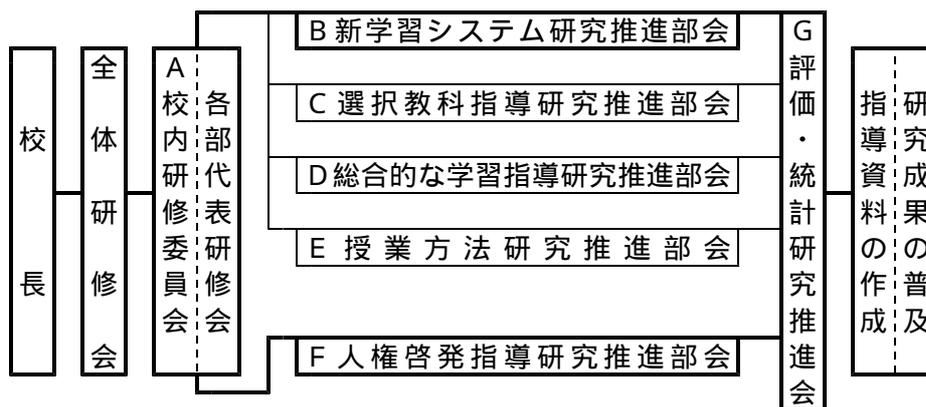
(2) 研究主題設定の趣旨

(1) 個を伸ばす授業の構築により、生徒に出来る喜びを体感させ、自分から進んで課題に取り組む生徒、自らの考えや思いを表現できる生徒の育成を図る。
(2) 生徒相互間の支援活動を通して、積極的に協力しあいながら学習に取り組む態度や意欲の育成を図る。

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

(1) 研究推進体制の工夫

編成した組織が効率よく機能し、全職員が責任と自覚を持って取り組むように、学校教育活動及び校務分掌との相関性を持たせ、下図のような研究組織を編成した。



(2) 研究内容与方法

生徒の学習意欲を向上させるための指導のあり方や授業の進め方を研究テーマとし、全学年の国語、数学、英語において少人数授業を実施している。また、地域体験活動を導入し、地域教材、地域ボランティアを積極的に活用している。

生徒の実態を把握したり授業を分析・評価するための方法として、少人数授業等きめ細かな指導領域においては、以下の取組等を取り入れながら、授業(指導法など)や取り組み(指導体制など)を検証・評価しながら、生徒の育成や学校の基盤整備を図っている。

- ・自己評価力 - ド...授業及び単元ごとに自己の取組について評価
- ・単元テスト...生徒のつまずきや理解の様子 of 把握と手だて
- ・テストの分析...内容に対する生徒の様子 of 把握とアドバイス
- ・基礎テスト...つまずきの把握
- ・アンケート...推進への評価及び保護者の願いの把握、手だて
- ・教科担当者会...指導法等の確認と検証
- ・教科懇談会...保護者への説明責任

(3) 研究の成果と課題

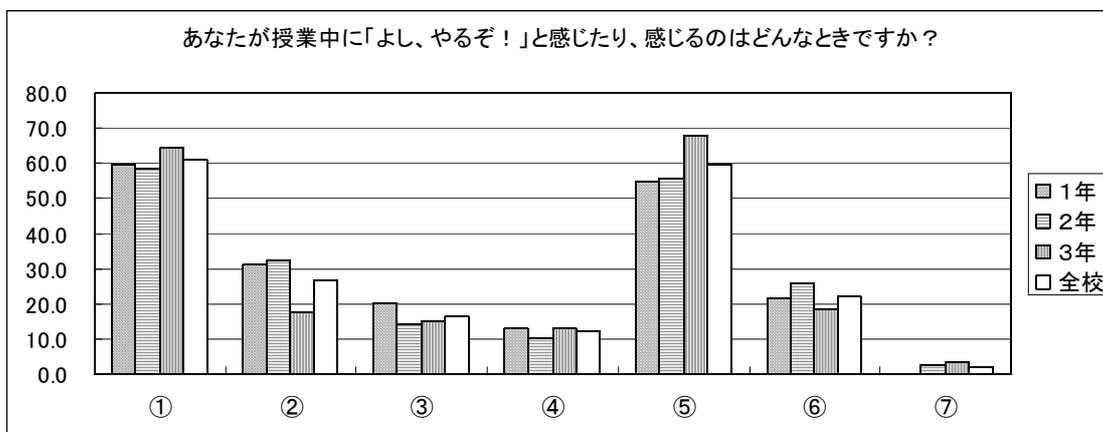
研究の成果

- ・どの教科においても生徒が同じ姿勢で授業に取り組めるようになってきた。また生徒会が自主的に授業規律を作り、全校に呼びかけを行う取組を行えた。
- ・授業研究の機会が多くあり、「授業」に対して相互に学ぶことができ、授業改善に役立てることができた。
- ・自ら発表する生徒が増えてくるとともに、答えを導く過程を大事にしようとする雰囲気芽生えてきた。
- ・教え合うことやともに考えようとする相互支援の姿が増えてきた。
- ・発表する場面や相互支援の場面、自己評価等より、課題別編成は、生徒の内面にある劣等感的要素を改善し、意欲を高めるのに有効であると感じる。

今後の課題

学習を成立させるためには、生徒一人ひとりの学習状況の特徴をとらえる必要がある。そのために、「学習への意欲を高める要因」を探るためのアンケートを行った。下記のグラフは、そのアンケートの中の一例である。

授業への意欲関心アンケート



- ①「今までよりもよくできるようになった。」と感じたとき
- ②自分の考えや作品などを先生がほめてくれたとき、認めてくれたとき
- ③自分の考えや作品などをみんながほめてくれたとき
- ④自分の考えがみんなと同じであったとき
- ⑤自分の力で作品ができたり、問題が解けたとき
- ⑥自分の考えがうまく説明できたり、言えたとき
- ⑦その他

「できた」という思いを体感すればするほど、学習への意欲や関心度が高まる傾向にある。

操作活動や創作活動、体験活動の改善や教材の開発、導入の工夫などを図りながら、評価についての研究もさらに進めていかなければならない。また、生徒たちの発達段階にふさわしい指導について、研修等を通して学び、授業実践を積み上げていく必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

- 研究会及び研修会
- ・各学期に1回小中学校の交流や連携、授業作り等を目的に授業研究会・研修会を開催
 - ・小学6年生の児童と保護者を対象に、学校の様子や取組の公開等を目的にオ・ブンスクールを開催
- 研究成果の普及
- 研究冊子を作成し、丹波地区内の教育関係機関及び小中学校に配布予定
- フロンティアティ・チャ・としての活動
- ・他校との情報交換及び取組の報告
 - ・小学校との連携
 - ・職員への情報発信及び取組への啓発
 - ・アンケートの集約及び分析
 - ・各推進部の活動の調整及び啓発

少人数の分割法などについては、他校より本校の課題別分割方式で成果を上げたという声をいただいている。また、小中との連携において、小学校より授業規律の大切さを理解したとの声をいただいている。

(5) その他

- ・学校の教育活動に積極的に地域連携行事を取り入れており、地域に学ぶ姿勢が生徒に培われている。主な活動には独居老人訪問、公共施設の清掃、生徒消防団活動、里山探険活動等がある。
- ・選択教科や総合的な学習の時間において、部分的に異学年による学習集団を形成し、生徒の興味・関心に応じた柔軟な学習集団を編成している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

小規模学校の特性を生かし、自己評価カード、単元テスト、基礎テスト等多様な評価方法により生徒の学習実態を的確に把握し、絶えず指導方法の改善を行っている。

加えて、地域連携行事を積極的に実施し、日頃から保護者、地域を巻き込んだ教育活動を展開しているため、保護者、地域から学力向上に係る支援を得やすい状況にある。

また、小学校、中学校が連携した授業研究を推進しており、発達段階を考慮した指導の在り方についても改善を行っている。